

キャリア開発のための5つの理解を考える

キャリア・カウンセラー 平澤 麦生

キャリア開発のためには自己・環境・職業・企業・就活の5つの理解が必須となる。5つの理解の促進に繋げていただきたいと考え、以下に各理解について列記する。

キャリア開発のための自己理解

自己理解のための方法が自己分析、自己分析の手法は大きく3つくらいに分かれる。一つはテストで行うもの。二つ目は自分の性格や強み、弱みや価値観などを記述し行うもの。三つ目は他人からの評価や感想を聞き取って行うもの。

いずれの方法も単独で行うのも良いが総合的に複合して行うのが理想である。

三つ目は相談員などとの話から得られる場合もある。相談員は多くのクライアントと接してきて大概の場合は評価する目を持っている可能性が高い。

従って相談員の評価や感想から自己分析に結び付けるのも有効となる。

テストも心理テスト(エゴグラム、YGなど)や職業の興味、能力、志向のテスト(VRT、VPI、キャリアアンカーなど)といろいろある。

二つ目の記述による方法は書店の自己分析の書籍にあるシートやある様々な自己分析シートから選択して内容記述により実施するとよい。

いずれにしても「自己分析」による自己理解はキャリア開発の基礎だから、しっかりと十分な時間をかけて取り組む必要がある。

キャリア開発のための環境理解

環境理解のためには、自分を取り巻く環境(雇用状況、業界状況など)を理解しておくことでどんな業界や職種を選択したほうが良いかの判断材料を得ることが必要となる。自分が居住する場所の雇用状況はまちまちで、競争条件はその場所々でかなり異なっている。

また、その場所に固有の好・不況業界があり職種別の競争状況・平均賃金や勤務時間などの雇用条件には差がある。

従って雇用環境を知ったうえで活動を進めることが重要となる訳だ。

そして上記の雇用環境理解とともに必要なのが業界の理解とその場所に特有の業界状況の理解であろう。

では環境理解のための情報源とは何であろう。インターネットでは北海道労働局の「し

イバーレター」(全国の地方にも同様のものが存在する)があり業界紹介の書籍としては「日経業界地図」、「業界地図」などがある。更に地方地方の業界名簿、名鑑があり業界紙がある。

これらの様々な情報源から自分を取り巻く環境を理解することは自分の進路選択の大まかな方向性を決める上で欠くべからざること。

これらは知った上で活動すべき重要な基礎知識である。

キャリア開発のための職業理解

自分のやりたい職業や出来ることを活かす職業を探すためには、基本的な職業に対する理解が出来ていなければならない。

世の中にどんな職業があるのか体系的に学び、その中から自分に合う職業を見つけだすことが重要だ。

職業個別の内容を知ることも重要であり、その具体的な内容をより詳しく知るための「インターンシップ」も重要になる。

職業理解のための情報源にはインターネット情報の「職業図鑑」や「Career Garden」「あしたね仕事人」などがあり書籍では「なりたい職業ガイドブック」や「あこがれ仕事百科」などの他に書店の「就活コーナー」で良く見受けられる個別の職業紹介の本等々がある。

そして、個別の職業紹介の本には具体的な仕事内容とその仕事の収入などの待遇、場合によっては必要な資格などの付帯的な情報も盛り込まれている。

上記のような情報を活用することで自分に合っている仕事を選択し自分の適性との一致度を図りながらふさわしい仕事を決定する。

更に仕事は実際にやってみなければ分からない側面もあり「インターンシップ」の必要性も無視できない。

学生の「インターンシップ」はここ数年機会も多くなり期間も長くなっているというが、まだその先進地域のアメリカにはかなりの開きで及んでいない。

「インターンシップ」の前段階の職業研究を深めることでその差を埋めていくことも可能になるであろう。

職業理解の促進と、職業の適性判断の双方のシステム化と広範囲での活用がなされることは今後の課題と言えよう。

キャリア開発のための企業理解

キャリア開発の最終盤では実際に仕事を決めて、最後の最後で働く場を決めていかなければならない。

そして自身のキャリア形成の場として具体的な企業を選択する必要があると考える。企業研究は、まずホームページから調べる。ホームページには一般的に代表者の挨拶、会社の方針、会社の概要、業務内容（これはかなり詳しい）、会社の特徴や詳細な体制（組織、支店網、各組織の詳細など）、以上のようなものが掲載されている。次に、民間の信用調査会社のデータだが、帝国データバンク企業名鑑や東商信用録などがあり、そこには設立、資本金、従業員数、代表者、会社役員、過去数年間の売り上げ、利益、主要な取引先（仕入、売上）などの会社情報が記されている場合が多い。これらの情報は各企業のホームページ上では公開されていないことも多い。出来うれば活用しながら多角的に研究したいものだ。そして研究した内容を分析し企業選択に活かす。これらの諸情報から企業理解を充分に進めることで失敗の少ないキャリア選択が可能となると考える。

キャリア開発のための就活理解

キャリア開発のためには自己・環境・職業・企業・就活の5つの理解が必須となる。就活理解のためには、まず就活の仕組みを知ることが必要だ。就活に欠かせないものは応募書類であり、面接であろう。

応募書類の中心的な存在は履歴書と職務経歴書であるがこれ以外にも「添え状」、「エントリーシート」、「ポートフォリオ」などが存在する。（詳しい説明は省く）一般的に全年代で使われるのは「添え状」「履歴書」「職務経歴書」となる。特に注力すべきは職務経歴書だが、その大きな3つの構成要素は「志望動機」「職務経歴」「自己ピーアール」となる。

その記入上の留意点については過去のブログ「[応募書類について再び考えてみよう](#)」に詳しく載せているので参照願いたい。

次に面接だが面接成功のキーワードは次の3つ「事前準備」「第1印象」「能力・意欲のアピール」。「第1印象」についてはマナー・礼法の熟知とその実行が大前提となる。マナー・礼法の細かな留意事項は当法人のセミナーや公的機関や民間の就活セミナーでも詳しく説明されているのでそちらに譲りたい。「事前準備」も過去のブログ「[面接の8つの準備](#)」に詳しく載せているので参照願いたい。

「能力・意欲のアピール」については応募書類の志望動機や自己ピーアールで当然行っている訳で、それとのずれの無い回答が必要であり同じことを繰り返すのみならず、強調や関連のエピソードの追加なども意識すべきことになる。

この就活理解の2大要素以外にも自己分析や企業研究なども欠かせないのは言うまでもない。

詳しくは、[当ホームページの「就職活動ガイド」](#)にも掲載しているのでこちらも参照頂きたい。

(完)